



KICK OFF 通信

目指せ「人財大国！」キャリア教育の本質

◆キャリア教育の実施状況

若年層における失業率や非正規雇用率の高さ、あるいは無業者、早期退職者の多さを見ると、学校から社会や職業への移行が円滑に進んでいないと言えるでしょう。益々この傾向が顕著になる中、「働くことの喜び」「社会の実態の厳しさ」を知った上で、自立に必要な能力や態度を身につけてもらう、キャリア教育は不可欠なものとなりました。

今では、全国公立中学校における職場体験の実施率は99%、そして高校におけるインターンシップ（就業体験）実施率は85%です。その一方、文科省サイドは5日間の実施を提唱しているものの、実際に5日間実施できているのは全体の1割程度。8割近くは2～3日に留まっております。

◆キャリア教育の意義は

そもそも学生の段階から、自らの職業を選択するのは決して容易なことではありません。ましてや数日間だけの体験で、前述した喜びや厳しさを習得できるものでも

ないでしょう。

普段何気なく理解しているつもりでも、実際にそこに身を置いてみなければ気付かないことってありますね。モノを作って提供する側と、それを利用する側。すなわち生産者と消費者は、ある意味正反対の立場です。それを十分認識したときに、そこで作ることの大変さや尊さを知り、モノを粗末に扱わない気持ちを持つようになるのです。

キャリア教育では、こうした思いを抱かせることからスタートしなければなりません。そして自然と自分が生まれ育った街に対して愛着や誇りを持てるよう、次のステップに進んでいくことが求められます。

◆地域と一体となった実践例

既にいくつかの現場で、地域貢献を軸にしたキャリア教育が行われています。例えば、新潟県津南町の中学校では、まず「どうすれば町が発展するのか」「町の人たちの心を一つにするには」等につき、問題適することからスタート。

それを3学年かけて段階的に積み上げていくプログラミングを組みます。

1学年目は、地域の実情を調べ、2学年目は地域に関わるための職業体験をし、そして3学年目は地域に寄与するような数々のボランティア活動に参加する等々です。単発的な経験ではなく、継続的に街と関わっていくことは、子どもの成長にとって誠に意義深いものとなります。

◆地域と教育そして子どもたち

学校の授業で、実際に現場で働いているプロの話聞くのは効果的です。しかし、より積極的に学ぼうという姿勢になるには、何より子どもたちが地域に出て活動することではないでしょうか。

自分たちが住んでいる街にはそれなりの課題が存在します。それを、自らが主体的に地域と関わりを持って模索し、解決の糸口を見出していくこと。あくまで行政や教育機関は、それを引き出すサポート役に徹する、これがキャリア教育の本質ではないかと思えます。



水戸将史

【プロフィール】

昭和37年 7月28日生まれ
神奈川県立湘南高校・慶応義塾大学卒業後、サラリーマン生活を経て代議士秘書に…

平成 4年 「税は政治なり」との思いで始めた税理士試験に合格
平成 7年 県議会議員初当選～平成19年まで連続3期
平成19年 第21回 参議院議員選挙 当選
予算委員会・ODA委員会などの理事を歴任

平成26年 第47回 衆議院議員選挙 当選
維新の党・税制調査会事務局長
総務委員会&沖縄・北方領土特別委員会 両理事
国土交通委員会ならびに厚生労働委員会 委員
民進党・副幹事長 エネルギー調査会事務局次長

平成29年 第48回 衆議院選挙出馬せず下野する
平成30年 一般社団法人 人づくり・国創り研究会を設立

前衆議院議員 / 神奈川5区(戸塚・泉・瀬谷)